

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2017年2月)
～先行きも好調さが持続する公算大～

発表日: 2017年3月31日(金)

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL: 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
15	1月	2.9	▲2.6	3.5	▲2.6	▲0.1	5.6	▲1.0	9.3	8.5	3.2	3.8	▲8.1
	2月	▲2.2	▲2.4	▲3.2	▲3.0	0.9	7.0	1.7	8.6	▲9.7	▲3.1	▲2.0	▲5.2
	3月	▲0.5	▲2.0	▲0.6	▲3.0	0.1	6.1	0.4	8.2	▲0.3	▲2.0	▲0.6	▲6.8
	4月	0.7	▲0.2	0.9	0.0	0.0	6.4	▲0.3	6.9	2.2	3.1	0.0	▲3.7
	5月	▲2.2	▲4.5	▲1.4	▲3.5	▲0.3	3.9	1.0	6.5	▲0.8	▲0.5	▲1.9	▲6.9
	6月	1.7	2.1	0.6	1.7	0.8	3.9	▲1.7	1.2	1.2	5.0	1.7	0.2
	7月	▲0.9	▲0.6	▲0.6	▲1.0	▲0.6	2.7	▲0.1	1.9	▲0.5	▲0.1	0.1	▲0.9
	8月	▲0.7	▲0.9	0.2	0.7	0.2	1.9	3.2	1.2	▲2.3	0.3	0.9	0.7
	9月	0.3	▲1.2	▲0.3	▲2.0	▲0.1	2.0	▲1.0	3.7	▲0.7	▲3.5	▲1.1	▲1.0
	10月	1.2	▲1.6	2.6	▲0.8	▲1.2	0.2	▲1.8	▲0.4	0.5	▲4.6	4.5	1.8
	11月	▲1.1	1.4	▲2.4	0.7	0.4	▲0.4	2.2	▲0.4	▲0.4	▲1.5	▲3.9	2.9
	12月	▲1.2	▲2.1	▲1.4	▲2.5	0.4	0.0	0.7	3.1	▲2.4	▲6.0	0.1	0.8
16	1月	2.5	▲4.2	2.0	▲5.4	▲0.3	0.2	▲0.1	4.1	4.2	▲10.7	2.1	▲2.2
	2月	▲5.2	▲1.2	▲4.1	▲1.6	▲0.2	▲0.9	▲1.5	0.9	▲8.1	▲1.5	▲4.3	▲0.7
	3月	3.8	0.2	1.8	▲0.7	2.9	1.8	3.3	3.8	2.6	▲4.8	0.0	0.5
	4月	0.5	▲3.3	1.6	▲3.4	▲1.7	0.1	▲2.2	1.8	5.2	▲3.7	4.9	0.6
	5月	▲2.6	▲0.4	▲2.6	▲1.0	0.4	0.8	1.8	2.6	▲1.4	▲1.1	▲5.3	1.3
	6月	2.3	▲1.5	1.7	▲1.7	0.0	0.0	▲1.5	2.8	1.0	▲2.9	1.7	▲0.7
	7月	▲0.4	▲4.2	0.7	▲4.0	▲2.4	▲1.8	1.1	4.0	0.6	▲4.9	3.4	▲1.8
	8月	1.3	4.5	▲1.1	1.6	0.3	▲1.6	▲3.2	▲2.3	0.2	2.5	▲4.2	2.0
	9月	0.6	1.5	1.8	0.7	▲0.5	▲2.0	1.1	▲0.2	0.3	3.3	3.1	1.1
	10月	0.0	▲1.4	2.0	▲2.0	▲2.1	▲3.0	▲0.6	1.1	2.1	1.7	3.8	▲1.3
	11月	1.5	4.6	1.0	5.1	▲1.6	▲4.8	▲5.6	▲6.7	2.1	7.6	▲0.9	6.2
	12月	0.7	3.2	▲0.4	2.3	0.6	▲4.6	1.6	▲5.8	▲1.5	4.9	▲1.1	0.5
17	1月	▲0.4	3.7	0.3	4.3	▲0.1	▲4.4	1.5	▲4.4	0.5	4.7	▲0.7	2.0
	2月	2.0	4.8	▲0.1	3.7	0.9	▲3.3	▲0.1	▲3.1	▲3.1	3.7	1.4	3.4
	3月	▲2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	4月	8.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)17年3、4月は、製造工業生産予測調査の数値

○1月の落ち込みから明確にリバウンド

経済産業省より発表された2017年2月の鉱工業生産は前月比+2.0%と、事前の市場予想(前月比+1.2%)を上振れた。生産予測指数の前月比+3.5%こそ下回ったが十分に高い伸びで、1月の低下(▲0.4%)から明確にリバウンドした。

1月分では、中華圏の春節による生産時期のズレ(今年の春節は例年比でタイミングが早く、1月の輸出を下押しした)によって下振れていたが、2月は逆に春節が生産押し上げ要因になった。また、1月に大きな減産となった輸送機械も2月は大きく伸びており、上昇に寄与している。1-2月平均の鉱工業生産は10-12月期を+1.6%上回っており、生産が引き続き速いペースで拡大していることが確認されている。

○3月計画が上方修正で減速リスク和らぐ。4月の予測指数も強い

今月、ヘッドラインの数字以上に注目されるのが予測指数の動きである。前月時点では、3月の製造工業予測指数が前月比▲5.0%と非常に大きな減産計画となっており、1月分の生産下振れとあいまって、先行きの生産活動減速懸念を抱かせる内容となっていた。

しかし、本日公表された予測指数では、3月が前月比▲2.0%となった。落ち込み幅は前月時点と比較して

かなりマイルドな姿に変わっており、減速懸念は和らいだといって良いだろう（3月の予測修正率は+1.0%）。仮に3月が予測指数通りだった場合、1-3月期の鉱工業生産は前期比+1.3%となる。10-12月期が+2.0%と非常に高い伸びだった後であることを考えると、引き続き速いペースでの増産が続いているとの評価になろう。

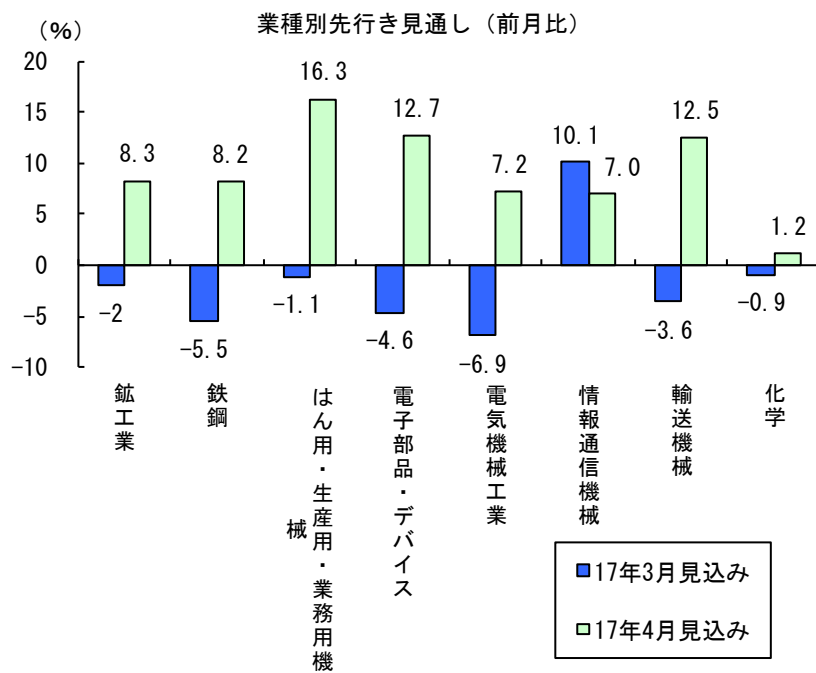
また、4月の予測指数が前月比+8.3%と大幅なプラスになっている点も注目だ。4月はゴールデンウィークの影響で季節調整が難しく、強く出過ぎている感があり、最終的には4月分が下方修正、あるいは5月分で反動減といった形になると思われる。もっとも、相当割り引いて考えたとしても4月が前月比で明確なプラスになることは間違いないだろう。4-6月期についても良好な滑り出しになる可能性が高まった点は好材料だ。

こうした強い予測指数の背景には、良好な外部環境がある。世界的に製造業サイクルは上向いており、企業の景況感を的確に示す製造業PMIは昨年春を底として明確に改善している。在庫調整の進展や中国景気の安定、IT需要の拡大等が背景にあるものと思われる。景況感が改善しているのは日本も同様であり、製造業PMIは好調な推移が続いている。こうした需要の好調さに加え在庫調整もほぼ終了しており、生産が先行き崩れる気配は窺えない。単月のアップダウンはこれからもあるだろうが、均してみれば好調さが持続する可能性が高いだろう。



出所) 経済産業省「鉱工業指数」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所) 経済産業省「製造工業生産予測調査」